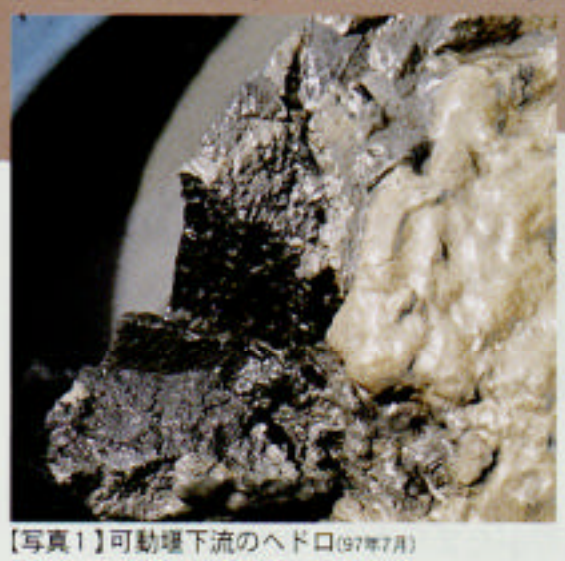
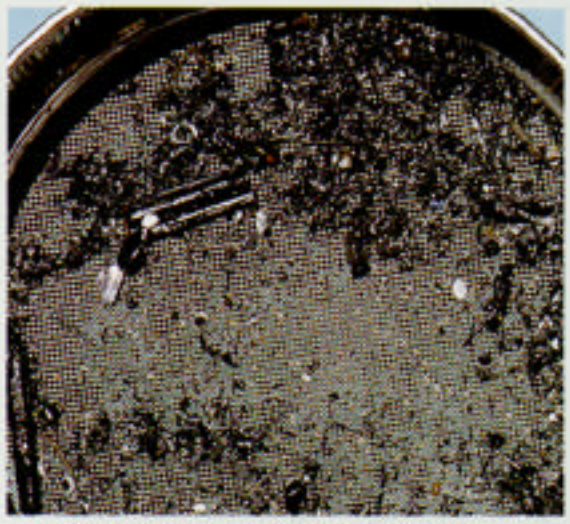
可動堰は環境に深刻な影響を与えます。

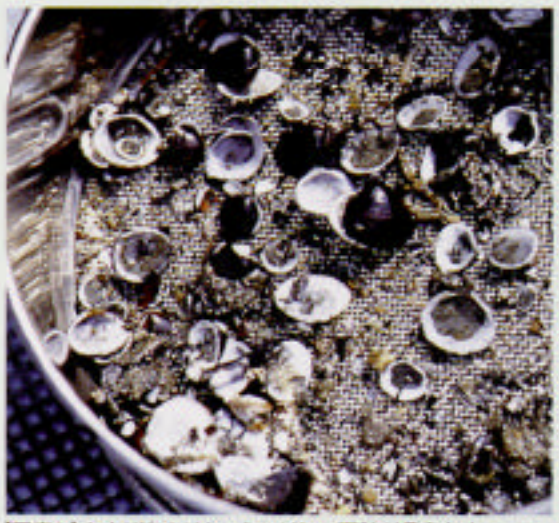
長良川は訴えます。



【写真1】可動堰下流のヘドロ(97年7月)



【写真2】ヘドロの中はゴミばかり(97年7月)



【写真3】たまり始めはヤマトシジミの死骸が見られた(96年5月)

長良川では1995年から可動堰(河口堰)が運用されています。

1. ヘドロと死に絶えたシジミ

可動堰(河口堰)の下流ではヘドロがたまり(写真1)、生き物はイトゴカイ類など特殊なもの以外ほとんどいなくなりました(写真2)。

このあたりはシジミ漁がさかんだった所で、ヘドロのたまり始めは中にヤマトシジミの死骸が多数見つかっています(写真3)。隣の揖斐(いび)川には可動堰(河口堰)が無く、今も砂地でたくさんのヤマトシジミが生息しています(写真4)。

99年9月15日の台風の前は、多いところで2mほどのヘドロがたまっていました(裏面の図6)。ヘドロは大水でも流されず、台風による大出水の後は、ヘドロの上に砂がつもりました(99年11月調査)。　再びヘドロがたまるのも時間の問題と思われます。

2. メタンガスのアワ、ヨシ原の衰退

可動堰(河口堰)の上流でも汚泥がたまり(写真5)、メタンガスが発生しています。上流のシジミ漁も始めは可能でしたが(写真6)、ゴミばかりになりました(写真7)。

常時水をためるため、岸辺のヨシは枯れてしまいました(写真8→写真9)。

【写真4】隣の揖斐川は砂地でヤマトシジミが多数生息

【写真5】可動堰上流の汚泥・メタンガス発生

【写真6】可動堰上流でのシジミ漁
(95年9月 シジミプロジェクトの公表資料)

【写真7】同じ場所はゴミばかりになった
(99年4月、シジミプロジェクトの公表資料)

【写真8】可動堰から3kmほど上流はヨシ原だった(95年8月) 6kmほど上流までは広いヨシ原があった

【写真9】同じ場所のヨシは多くが枯れてしまった(98年8月)

可動堰反対市民の会